

MENU

- 1 会長ごあいさつ p1
- 2 活動のご報告 p2
- 3 事務局より p6

ごあいさつ

日本港湾経済学会中部部会
会長 林 上



日本港湾経済学会の第57回全国大会が、2018年9月5日から7日までの3日間、名古屋で開催されました。今回は中部部会が大会全般の事務を担当するというので、初日は名古屋港の見学会、2日目は基調講演と共通論題のシンポジウム、自由論題、そして最終日は自由論題の発表という内容で行われました。名古屋港見学会では「ぽーとおぶなごや2」に乗船し、ガーデンふ頭を起点に西側から東側へと反時計回りで港内を一巡しました。前日は猛烈な台風21号の影響で海上は大変だったと思われるのですが、見学実施の当日は波穏やかな天気にも恵まれ、港の様子をじっくりと見学することができました。過去にも数回、港内見学をしたことがありますが、今回はポートアイランドを間近で見ることができました。意外にも島には植物が生えていることが、遠くからでも確認できました。伊勢湾、名古屋港内に浮かぶ緑の島が将来どのように利用されていくのか、少しばかり気になりました。埋め立てを繰り返しながら現在の姿を現すようになった名古屋港にとって、いまは陸から行き来する手段のない緑の孤島がいかなる意味をもつようになるのか、当事者でなくとも関心が持たれるところで

す。

さて、大会2日目以降は愛知大学名古屋キャンパスを会場として、基調講演や研究発表などが行われました。共通論題のテーマは、人口減少時代の港湾でいかに生産性を上げるか、というものでした。生産性の向上は、時代や地域あるいは産業の種類や部門に関係なくどこでも求められます。港湾物流においても、コンテナリゼーションやインターモーダルなど、生産性向上のためのイノベーションが過去に幾度となく起こされました。現代の日本では人口減少という大きな課題が加わるため、余計に生産性を上げるための手立てを考えなければなりません。すぐに思い浮かぶのはいま流行りの自動化ですが、実際に自動化を進めるにはいくつものハードルがあることが、シンポジウムのパネラーから

(次ページに続きます)

(前ページから続きます)

報告されました。人間と機械の共存・協調関係は古くて新しい問題です。マン・マシン・リレーションシップの問題は奥が深く、簡単には解の得られないことを、シンポジウム参加者の多くは受け止められたことと思います。しかしそれでもなお、生産性向上を求める諸力が社会、経済のあり方を変えていくことは、過去の歴史が教える通りです。

名古屋港が開港して今年111年目の年に当たります。貨物取扱量で全国一の地位を維持していることは、徐々に知られるようになったと思われまふ。近年は製品輸入も増えてきていますが、なんといっても工業製品の輸出が多く、これが大きな黒字額につながっています。港湾背後圏に厚い工業集積があり、国際競争力の強い高レベルの工業製品が生産されていることが、輸出を大きく牽引する原動力となっています。ただし、国際経済が激しく変化している現代、現在の国内経済や産業構造がこのままであるはずはありません。港湾背後には工業集積とともに広大な大都市圏も広がっています。1世紀以上もまえに先人が努力して開いた名古屋港に求められる役割が、時代とともに変わっていくことは避けられません。

今回、日本港湾経済学会の会場となった愛知大学名古屋キャンパスは、名古屋港と名古屋駅を結ぶために建設された中川運河の北端にかつてあった船溜まりに隣接しています。とくにそのことを意識して今大会の会場を選んだというわけではありませんが、期せずして、港湾にとって歴史的に意義のある場所で、これからの港湾のあり方について論じ合うことができました。今大会のために努力を惜しまれなかった関係方面の皆様方には、この場をお借りして深くお礼を申し上げます。

2018年9月

活動のご報告

平成30年度 中部部会総会及び研究報告会

平成30年度 日本港湾経済学会中部部会 総会及び研究報告会を
平成30年8月9日(木)に名古屋港湾会館にて開催いたしました。

開会の辞・挨拶

総会及び研究報告会の開催に先立ち、林会長よりご挨拶を申し上げるとともに、日本港湾経済学会本部より、昨年に続き会長の同志社大学 石田信博様にご臨席賜り、ご挨拶のお言葉をいただきました。



開会の辞【林会長】



挨拶【石田会長】

研究報告会

研究報告会では、渡邊 悌爾氏（三重大学）による司会進行のもと、下記の方よりご報告をいただきました。 ※____（アンダーライン）は当日の発表者

- ① 河野 公洋 氏（岐阜聖徳学園大学）
「人的資源枯渇時代の名古屋港湾事情の現状と将来像」

- ② 岡 良浩 氏（四日市大学）
鶴田 利恵 氏（四日市大学）
別府 孝文 氏（㈱三十三総研）
畑中 純一 氏（㈱三十三総研）
水野 英雄 氏（椋山女学園大学）
「四日市港へのクルーズ客船の寄港による経済波及効果の推計」

- ③ 合田 浩之 氏（東海大学）
岡田 夕佳 氏（東海大学）
合志 明倫 氏（東海大学）
「国内港湾におけるメガヨットの寄港可能性」

また、それぞれの報告について予定討論者の石田 信博氏、朝日 幸代氏、田村 研氏との活発な意見交換が行われました。



河野 公洋氏



岡 良浩氏



合田 浩之氏



石田 信博氏



朝日 幸代氏



田村 研氏



研究報告会の様子



司会の 渡邊 悌爾氏

総 会

総会では、以下の議事について審議をし、すべて議案どおり承認いたしました。

- 議事 1：平成 29 年度事業報告、決算及び監査報告について
- 議事 2：役員の一部改選について
- 議事 3：平成 30 年度事業計画及び予算について

総会及び研究報告会終了後、名古屋港湾会館にて懇親会を開催いたしました。

林上会長の挨拶に続き、中部部会功労会員である眞継 隆氏の乾杯の音頭により懇親会が始まりました。今回も、中部部会の会員でもあり、名古屋港管理組合職員である港湾工事事務所葛山所長より、一昨年、昨年に引き続き、特別企画マジックショーをご披露させていただきました。

懇親会では、25名の方にご参加いただき、盛況のうちに終わることができました。



眞継 隆 氏による乾杯



懇親会の様子



大島新副会長による挨拶



マジックショー



事務局からのお知らせ

会費納入のお願い

法人会員及び個人会員の方で、まだ、今年度の会費の納入がお済みでない方へは、請求書を送付させて頂いております。

つきましては、会員会費の納入を、お手数ですが以下どちらかの指定口座まで、請求金額をご確認の上、10月末までにお振込み頂きますようお願い申し上げます。

※法人会員は年額10,000円、個人会員会費は年額1,000円となっておりますが、納付状況により請求金額が異なりますので、必ず、請求書をご確認ください。

【振込先①】

三菱UFJ銀行

名古屋港支店（店番号292）

普通預金 口座番号 0633227

日本港湾経済学会 中部部会



【振込先②】

ゆうちょ銀行

記号 12160

番号 44997141

日本港湾経済学会 中部部会



日本港湾経済学会中部部会ニュースレターに関するご意見、ご要望、ご提案、お問合せがございましたら、事務局までご連絡ください。

配信停止を希望される場合は、お手数ですが配信停止の旨を事務局までご連絡ください。

■ 日本港湾経済学会中部部会 事務局 ■
名古屋港管理組合 企画調整室 企画担当内
担当：伊藤、光地
〒455-0033 名古屋市港区港町1番11号
TEL:052-654-7902 FAX:052-654-7997
E-mail: kikaku@union.nagoyako.lg.jp

日本港湾経済学会中部部会ホームページ URL : <http://www.portecon-chubu.com>
日本港湾経済学会ホームページ URL : <http://port-economics.jp/>
名古屋港管理組合ホームページ URL : <http://www.port-of-nagoya.jp>